

令和5年度 津市立東橋内中学校 学校経営の改革方針

1 学校教育目標

「豊かな心と健康な体を持ち、目標に向かって主体的に行動し、学び合う生徒の育成」

2 めざす学校像

- (1) 一人ひとりが大切にされる学校
- (2) 一人ひとりのよさが光る学校
- (3) 地域に信頼される学校

3 めざす生徒像

- (1) 人権を大切にし、仲間とともに高まろうとする生徒
- (2) 意欲的に学び合い、自己実現を図ろうとする生徒
- (3) 主体的に行動し、正しい判断力とコミュニケーション力を身に着けた生徒
- (4) 健康安全に留意し、命を大切にする生徒

4 現状と課題

生活背景を要因とした生徒に関わる課題は減少傾向にあるもの、依然として厳しい状況にある生徒は少なくない。学校としては、生徒の生活背景を十分に把握した上で、未来に向け主体的に考え行動できる資質や能力および意欲と態度を身につける教育を推進していく必要がある。ほとんどの生徒は、落ち着いて学習活動に取り組むことができるようになってきている。また、英語スピーチコンテスト、人権作文コンテスト、ふれあいリズムダンスは全国大会へ出場するなどこれまでの取組が成果として表われてきている。このことは、生徒たちの学習意欲の向上や仲間を支える気持ちを育むことにつながっている。

外国につながる生徒の割合は、約57%である。将来の日本での就労を見据え、高校卒業時に「日本語能力試験（N2）」の取得をめざしている。そのためには、中学校段階から日本語での一斉授業における効果的な学習言語の取得や授業内容の理解の促進が求められ、デジタル教科書の活用など指導方法の改善が必要である。来年度もICT機器の効果的な活用と主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善に全校体制で取り組み、生徒の学ぶ意欲と学力の向上をめざしていきたい。

4. 令和5年度学校経営スローガン

「 原点回帰 ～教育の原点は東中にあり 1%の可能性を信じて～」

5. 重点目標と具体的な行動計画

(1) 人権教育の充実を中核とした保幼小中一貫教育の推進

- ◇中学校区カリキュラムに基づく人権教育の推進
- ◇語ること、伝えあうことを大切に仲間をつなぐ教育活動の推進

(2) 主体的・対話的な深い学びとICT機器の効果的な活用をめざした授業改善の推進

- ◇ペア学習、グループ学習による対話的な学びの充実
(伝えあうことによる理解の深化)
- ◇デジタル教科書、ロイロノート等の効果的な活用
- ◇外部講師を活用した授業改善の推進と公開授業研究会の実施
- ◇外国につながる生徒の学びの充実に向けた指導方法の研究と改善
(津市外国につながる子ども支援プロジェクトの活用)
- ◇家庭学習の充実とICTの効果的な活用

(3) 確かな学力を育む教育の推進

- ◇一人ひとりの学びを保障する少人数授業の実施と「基礎学習の時間」の充実
- ◇朝の読書、放課後学習、三重大学との連携による課外講座の実施
- ◇家庭学習の充実に向けた保護者との連携強化

(4) 社会への自立が可能となる特別支援教育及び外国につながる生徒への指導の充実

- ◇特別支援教育コーディネーターを中心としたきめ細かな特別支援教育の推進
- ◇「特別の教育課程」の趣旨を踏まえた個別カリキュラムを作成するとともに学習言語を獲得し、思考を表現できる授業づくりの推進

(5) 生活習慣の形成と生徒理解に基づく生徒指導・生徒支援の充実

様々な教育課題が山積している中、生徒の置かれている困難な状態を正しく理解し、その課題解消に向け、教職員が生徒・保護者・地域に対して改善の方向性を積極的に提案し、ともに取り組みを進めていきたい。常に生徒や保護者の声を聞こうとする姿勢をもち、生徒の意識や姿の変革をめざしていきたい。

- ◇中学生の学校生活15か条」「中学生として身につけたい生活習慣15か条」の推進と保護者への啓発
- ◇外部人材の活用による生徒支援の充実
 - ・学校メンタルヘルス地域委員会事業の継続実施
 - ・思春期ライフプランセミナーの実施
- ◇道徳教育の充実
 - ・外部講師による助言指導
 - ・地域への発信
- ◇スクールカウンセラーとの連携強化

(6) 社会性を伸ばし、生き方を切り拓く教育活動の推進

- ◇体験学習を重視した学習活動や地域行事への参加
- ◇生徒会活動の充実、
- ◇表現活動やコンクール等への積極的な参加
- ◇レジリエンス教育の推進
- ◇「7つの習慣」を活かした主体性を育む活動の推進

(7) 教職員と生徒、保護者、地域との信頼関係の構築と地域とともにある学校づくりの推進

- ◇教育相談活動の充実
- ◇生徒・保護者理解に基づく家庭訪問の実施と保護者との連携強化
- ◇保・幼・小との連携強化
- ◇東橋内中学校区コミュニティスクールの推進

(8) 教職員の働き方改革の推進

- ◇一人当たりの月平均時間外労働時間の縮減
(月45時間以内、年間360時間以内をめざす)
- ◇一人当たりの年間休暇取得日数 前年度比2日増をめざす。
- ◇定時退校日を設定し、定時に退校できた職員の割合80%をめざす。
- ◇津市部活動指針により設定した休養日を予定通り実施できた部活動の割合100%
部活動の休日地域移行を見据え、地域における人材発掘に努める。
- ◇放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合80%

(9) その他

- ◇カウンセリングルーム(相談室)の整備を進めます。
- ◇制服の在り方を検討していきます。